

1 沖縄の米軍基地の歴史



沖縄県平和祈念資料館提供

1945年(米軍の沖縄本島上陸)

豊かな自然と独特な文化を有する沖縄は、太平洋戦争において、史上まれにみる熾烈な地上戦が行われ、「鉄の暴風」と呼ばれたほどのすさまじい爆弾投下と艦砲射撃により、緑豊かな島々は焦土と化した。

沖縄戦では、約1万トン(約2,200万ポンド)もの不発弾が残されたと推定されており、2017年現在でも約1,985トン(約440万ポンド)の不発弾が埋没していると考えられている。



沖縄県公文書館提供

1945年(普天間飛行場の建設)

沖縄に上陸した米軍は、住民を収容所に強制隔離し、土地の強制接収を行い、次々と新しい基地を建設。住民は土地を有無を言わず奪われた。

土地を奪われた住民は、自分の故郷に帰りたくても帰れず、基地の周辺に住むしかなかった。



(一財)わびあいの里提供

1955年(新たな基地建設)

太平洋戦争終結後も、米軍は、朝鮮戦争の勃発など国際情勢の変化に伴い新しい基地が必要になると、武装兵らによる「銃剣とブルドーザー」で住民を追い出し、家を壊し、田畑をつぶして、新たな基地を造っていった。



那覇市歴史博物館提供

1960年(米国統治下の沖縄で街中を行進する米兵)

戦後、沖縄は、1972年の本土復帰まで27年間にわたり、米国の施政権下に置かれた。この間、沖縄には日本国憲法の適用はなく、1970年まで国会議員を送ることもできなかった。